

玉川中学校区において授業研究会を開催します

～しおがま「学びの共同体」による授業づくりがスタート～

本市が推進する小中一貫教育事業では、今年度から、市内全小中学校で、しおがま「学びの共同体」による授業づくりに取り組みます。

この「学びの共同体」による授業づくりを市町村単位で実践している自治体は、県内では富谷市と本市となっておりますが、小中一貫教育のシステムを土台にして取り組んでいるのは本市のみで、全国でも数少ない事例となっております。

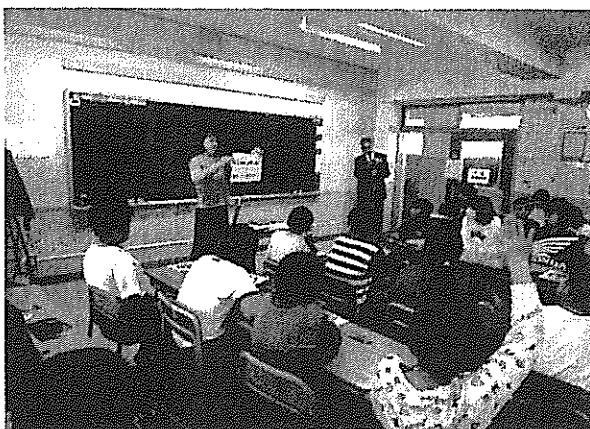
この度、玉川中学校区におきまして、授業研究会を次のとおり開催いたしますので、ご案内いたします。

◇ 玉川中学校区授業研究会 ◇

1. 開催日 平成30年6月12日（火） *時間は変更あり
13:50 研究授業（中学校理科） 授業者 狩野 明子 教諭
14:50 ワークショップ
15:45 全体会
指導助言者 茨城県牛久市教育委員会 指導主事 塚本 桂子 様
2. 場 所 玉川中学校体育館
3. 参加者 玉川中学校・玉川小学校・月見ヶ丘小学校の教職員

しおがま「学びの共同体」による授業づくりとは、平成32年4月から小学校、平成33年4月から中学校で全面実施する新学習指導要領の中核となる「主体的・対話的で深い学び」による授業改善に先行的に取り組むもので、どの子にも「できる・分かる」喜びを味わえる授業づくりを目指します。具体的には、一人の教員が全体に講義形式で行う「一斉授業」から、児童生徒の「学びに向かう力」を活用し、児童生徒の対話に基づく「協同的な学びの授業」に転換を図ります。

今回、「学びの共同体」による授業づくりを小中一貫教育事業の中核に据えることで、教育の質の向上への取り組みを更に加速させてまいります。



今年度、玉川中学校区での授業研究会を皮切りに、年間を通じて市内5つの中学校区で実施します。

<授業研究会の年間計画(予定)>

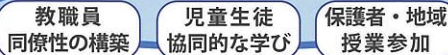
日 程	対象学区
6月12日（火）	玉川中学校区
6月、11月、12月、 1月、2月	第三中学校区
7月	第一中学校区
11月	第二中学校区

*第三中学校区（第三小学校と第三中学校）は、パイロットスクール（モデル校）に指定しています

塩竈市学力向上プラン

しおがま「学びの共同体」による授業づくり

しおがま「学びの共同体」



「塩竈市学力向上プラン」では、授業の中に、子どもたちが「活躍する場」や「交流する場」を意図的に設定し、どの子どもも「できる・分かる」喜びを味わえる授業を目指します。

そして、本プランでは、新学習指導要領によりスタートする「主体的・対話的で深い学び」(アクティブラーニング)の視点から、現在行われている授業を、旧来型の「一斉授業」から21世紀型の学習形態と呼ばれる「協同的学びの授業」への転換を図る授業改革に取り組みます。

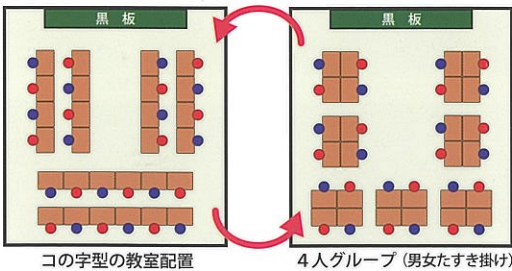
「学び」が生まれる授業をデザイン

①教師からの一方向の説明や講義ではなく、児童生徒の発言を「聴く」、「つなぐ」、「もどす」を基本とした「協同的学びの授業」を展開していきます。

②誰もが理解すべき「共有の課題」と、その理解を基礎として挑戦する「ジャンプの課題」の2つの課題で授業をデザインしていきます。

協同的な学びのスタイル

協同的学びでは、「全体の協同的学び(コの字型)」と「男女混合4人グループの協同的学び」を適宜組み合わせる授業を進めます。(小学校低学年ではペアでの協同的学び)



ユニバーサルデザインによる授業づくり

どの子どもも「できる・分かる」喜びを味わえる授業づくりには「ユニバーサルデザイン」の視点での授業改善が必要です。

子どもたちが、学習活動の見通しをもてるように、授業の「めあて」を明示したり、授業全体の流れを掲示したりするなど、授業をシンプルで分かりやすいものにすることが大切です。

また、指示を短く明確にしたり、視覚的な提示を工夫したりするなど、どの子どもも授業に安心して参加できる配慮が必要です。

構造化	Structuring	授業全体の見通しを提示
共有化	Sharing	ペア・グループで確認
焦点化	Focusing	授業をシンプルに
視覚化	Visualization	見える化 ICT 機器活用

塩竈市幼保小連携事業

市内の小学校と、市内の小学校に進学してくる幼稚園や保育所(園)との接続(幼保小連携)も積極的に進めます。

特別支援教育の視点での幼保小連携

近年、小学校に入学した児童が授業中に立ち歩く、話を聞けない、床に寝そべる等、学校生活に適応できず、学級がうまく機能しない状況に陥る、「小1プロブレム」が指摘されています。

そこで、特別支援教育の視点での幼保小連携に重点的に取り組みます。

アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムの活用

市内等の幼稚園・保育所(園)と、市内の小学校在円滑に接続できるように、幼稚園・保育所等で使用する「アプローチカリキュラム」と、小学校で使用する「スタートカリキュラム」を作成し、「生活の接続」と「学びの接続」を滑らかに進めるようにします。

特別支援教育スーパーバイザー

塩竈市学びの支援センター「コラソン」に、「特別支援教育スーパーバイザー」を配置し、各小中学校の教職員や保護者からの相談や、各校の特別支援教育支援員、幼稚園・保育所(園)へ指導・助言を行います。



中学校区単位の交流活動

すべての教育活動の中に、児童生徒の「活躍の場」と「交流の場」を設け、中学校区単位で、様々な特色ある交流活動を実施します。

また、地域の活性化や教育力強化等、学校の「新たな役割」の創出に向け、学校、家庭、地域が一体となった取組を積極的に進めます。



平成30年4月
印刷・発行 塩竈市教育委員会
編集 学校教育課
〒985-0052 宮城県塩竈市本町1-1
電話 022-365-3216 FAX 022-365-3347

塩竈市独自の小中一貫教育

～未来へ羽ばたく塩竈っ子のために～



～未来へ羽ばたく塩竈っ子のために～

塩竈市独自の小中一貫教育

目標 すべての子どもたちに「社会をたくましく生き抜く力」を育成する

「変化の激しい社会の中で、主体的に学び続け、多様な見方・考え方を働かせながら、たくましく自らの豊かな人生を実現するとともに、他者と協働しながら、よりよい社会を創り出していく力」を育成します。

取組方針

「一人一人の発達・成長を支え、一人も見捨てることなく、良さや可能性を伸ばす教育」を行う

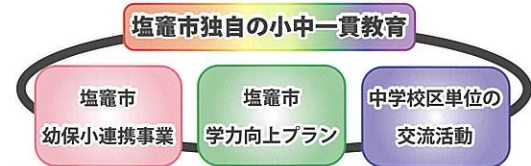
キーワード ～「活躍」と「交流」～

有能感(できる・分かる)、生命感(受容・承認)、達成感(達成・満足)を味わう一連の成功体験・感動体験を積み重ねて自尊感情を高め、目標を実現します。

小中一貫教育の必要性

- ①9年間の「学びの連続性」を確保し、教育内容や学習活動の質的向上を図ります。
- ②「中1ギャップ」や「10歳の壁」等の発達上の段差に適切に対応します。
- ③「中学校区単位」で多様化・複雑化する学校現場の課題に取り組みます。

具体的取組 目標の実現に向け、下記の3つの事業に取り組みます。



実施体制と施設形態

組織上独立した小学校及び中学校が、現行制度の枠の中で一貫した教育課程を編成・実施する「小中一貫型小・中学校」の体制及び、「施設分離型」の施設形態で、系統的・連続的で、一貫性のある教育を推進していきます。



※浦戸小中学校は、平成27年度から施設一体型の小中一貫校になりました。
※二小からは、一中と二中に進学しますが、当面、一中との一貫教育を進めます。

ユニバーサルデザイン による授業づくり

授業をシンプルで分かりやすいものにする
とともに、どの子も授業に安心して参加で
きる配慮をします。



教室の掲示物は必要最小限とする

塩竈市教育大綱の目指すべき姿

「未来に羽ばたく塩竈っ子」の育成



到達目標

「社会を
たくましく
生き抜く力」
の育成

学力向上プラン

「授業づくり」、「学ぶ意欲と姿勢づくり」、「家庭における学習環境づくり」
の3本の柱をベースに、学校、保護者、地域が一体となった取組を行います。
特に、「活躍する場」や「交流する場」を設定し、すべての児童生徒が、
「できる・分かる」喜びを味わえる授業を目指します。

保護者
学習参加

しおがま
「学びの共同体」
による授業づくり

児童・生徒
協同的な学び

中学校

児童生徒間交流

塩竈市独自の小中一貫教育 9年間の「学びの連続性」

中学校区単位の
交流活動

すべての教育活動の中に、児童生徒の「活躍の場」と「交流の場」を設け、中学校区単位で、様々な交流活動を実施します。



小学生による中学校部活動体験

小学校のサマースクールに中学生がミニティーチャーで参加

教職員間交流

小中学校の教員が、学校の枠組みを超えて協力し合い、チーム・ティーチングで授業を行います。



中学校教員が小学校で英語の授業

小学校教員が中学校で数学の授業



小中学生の合同あいさつ運動

小中学生合同の集団下校訓練

教職員
同僚性

小学校

幼保小連携事業

アプローチカリキュラムと
スタートカリキュラムの活用

幼稚園・保育所(園)と、小学校が円滑に接続できるように、幼稚園・
保育所等での「アプローチカリキュラム」と、小学校での「スタート
カリキュラム」を作成し、「生活の接続」と「学びの接続」をします。

幼稚園
保育所

地域との交流 地域

学校、家庭、地域が一体となり、「オール塩竈」で子どもを育
てる体制を構築し、地域人材等を活用した交流を取り入れます。



保育体験前の保育士との交流 ゲストティーチャーの俳句の授業



全体の協同的学び(コの字型)



男女混合4人グループの協同的学び



専門性を生かした体育指導



中学校教員のファンディ研修